

株式市場新聞

www.marketpress.jp

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



1 第355号

日経平均株価

3万0808円35銭

▲234円42銭(前日比)

TOPIX

2161.69

▲3.84(前日比)

2023
5/22
月曜日

豪雨対策に「強い」味方

梅雨入りで気象関連に注目

5月下旬から6月上旬にかけては全国各地で梅雨入りシーズンとなる。気象庁による季節予報では今年も全国的に5月、6月ともに降水量は平年並みとの予想ながら既に5月上旬には記録的な豪雨により各地で水害が発生し、鉄道など交通期間がマヒしたのは記憶に新しい。豪雨災害を防ぐには長期視野立った防災対策が必要だが、短期的視野に立てば精度の高い気象予想により人的被害を最大限に防ぐ方策が必要になる。気象関連銘柄をピックアップしてみた。

高精度の予想で被害防止

日本気象協会によ「梅雨入り予想」上は平年と同様か早い傾向で、今年梅雨入りは、沖縄や九州から東北にかけて平年並みか平年より早いと予測されており、九州南部の5月下旬から北上して北陸や東北北部では6月

もうすぐ梅雨入り

このような状況下、降雨量が多い時期になると株価が動意付く銘柄も存在する。その筆頭は民間気象情報で世界最大手を誇るウェザーニューズ(4825)。昨

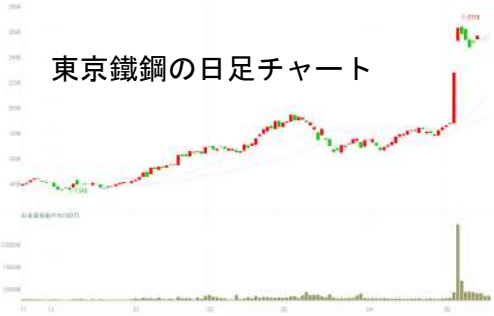
月中旬と見られて近

日経平均の日足チャート



と2021年は5月17日の5150円を底に上昇となり、12月9日には1万4700円まで急騰。2022年は6月17日の5760円を底に8月15日には8400円の高値を付けた。スマホ利用

の個人向け有料会員が伸びているうえ、海運など法人向けも好調。このほか天気予報専門サイト「tenki.jp」を運営するALINKインターネット(7077)やウェザーマップを傘下に持つIMAGICA GRO UP(6879)、河川監視など防災IoTサービスを提供するITbookホルディングス(1447)が注目される。



東京鐵がストップ高

49%営業増益で大幅増配

増)、営業利益で6
5億円(同49・0
%増)と大幅増益、
年間配当は150円
(前期110円)と

連休明
け8日、
東京鐵
鋼
(544
5)がス
トップ高
24年3
月期の業
績予想に
ついて、
連結売上
高で84
0億円
(前期比
6・0%

5月第2週の動意銘柄

大幅増配を見込み、
上限30万株(発行
済株式総数に対する
割合3・32%)ま
たは5億円の自己株
式取得枠の設定を発
表したことが支障し
た。

クリエイト上方修正

クリエイト(30
24)がストップ高。
23年3月期の業績
予想の修正を発表、
連結売上高で342
億
円
から
348億
8
100万
円(前
期比
10・6%
増)へ、
営業利
益で5
億
円
か
ら
6億
7900
万
円
(同
2・5%
増)へ
上方
修正、
期末
配当
を18
円
か
ら
20
円
(前
年同
期12
円)
へ引
き上
げた。
素材
の高
騰に
よる
各製
品の
値上
げ攻
勢の
中、
戦
略的
な仮
需対
応、
販
売先
への
価格
転嫁
な
どが
進ん
だ。

JFEHD 続騰し新値

9日、JFEホール
ディングス(541
1)が続騰、年初来高
値を更新し、日本製鉄
(5401)など鉄鋼
株全般に買いが広が
った。24年3月期の
連結業績は、事業利益
2900億円(前期比
23・0%増)と回復
を見込み、年間配当を
100円(前期80
円)に増配すると発表。
前期は為替や棚卸資

産評価差が大幅減益
の要因になったが、今
期は構造改革が完了、
鋼材需要回復に合わ
せ価格を引き上げる。
邦チタ大幅減益減配
東邦チタニウム(5
727)が大幅続落し
年初来安値更新。24
年3月期の連結業績
は営業利益46億円
(前期比57・0%減)
と大幅減益を見込み、

資生堂は連想売り

資生堂(49
11)が続急落。
3日のニューヨ
ーク市場で化粧
品メーカーのエ
ステイローダー
が急落し、上場
来の大幅安となつた
ことで連想売りを浴
びた。中国での旅行
の回復が想定よりも
鈍いことが影響して
おり、資生堂の中国
販売の不安も高まつた。

年間配当を12円(前
期30円)へ大幅減配
する。低コストの在庫
取崩しなど一過性好
転要因がなくなるこ
とが要因で、大阪チタ
ニウムテクノロジ
ズ(5726)も連想
売りを浴びた。

大水は取扱増で上ぶれ

大水(7538)
が急伸し年初来高値
更新。23年3月期
業績について連結営
業利益で2億100
0万円から4億32

正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は大幅に6週続伸し
ました。日経平均は前週末比1420円
高です。海外投資家の先物を絡めた買い
が買い戻しを誘発してリスクテイクの
動きが加速。前週からは7連騰で3ケタ
の上昇が続
後も騰勢は
年9月に付
上回つてい
銘柄、後半
米国株が下
フオローに
週足は大陽
週明けも上値
期的な過熱感
いでしよう。
く可能性は
遅れた投資
と考えられ、
わりはなさ
上げの動き
れ、先行し
遅れている
動きを注視。
花咲翁

出遅れの中小型株を注視
週末は好決算
は半導体関連がけん引
落するなかでも円安を
買いが入る強い基調で、
線を引きました。
を追いそうですが、短
否めず、騰勢一服が近
だ、海外勢の買いが続
急ピッチの上昇に乗り
下値の買い意欲は強い

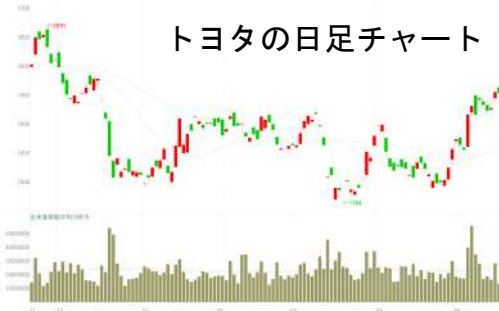


00万円(前期1
億9000万円の赤
字)へ上方修正した。
商材が高値傾向で推
移し、中央卸売市場
の取扱が増えた。

山田コン大幅増益で最高益

10日、山田コン
サルディンググル
プ(4792)がス

トップ高まで買われ、
年初来高値を更新し
た。同社は9日の取
引終了後、24年3
月期の業績予想を
発表、営業利益で前
比21・8%増の3
5億円と6期ぶりに
過去最高益を更新す
る見通しであること
が好感された。



トヨタの日足チャート

10日、トヨタ自動車(7203)が後場上昇に転じた。場中に発表した24年3月期の連結業績予想は営業収益38兆円(前期比2.3%増)、営業利益3兆円(同10.1%増)とほぼコンセンサス通りながら、想定為替レートは1ドル125円と円高で見積もっており、併せて1億2000万株、1500億円を上限とする自社株買いを発表したことで

トヨタ後場上昇転換

円高前提10%増益自社株買い

買いが優勢になった。

日本製鉄47%減益減配

日本製鉄(5401)が急落。24年3月期の連結業績予想は最終利益370

住友鉱山大幅減益減配

11日、住友金属鉱山(5713)が大幅続落、年初来安値を更新した。23年3月期の連結決算は税引前利益2299億1000万円(前期比35.7%減)で着地、24年3月期は770億円

(前期比66.5%減)を見込んだ。非鉄金属価格下落リスクや在庫評価など一過性要因を織り込んで保守的に見積もっているが、市場予想を大幅に上回る大幅

0億円(前期比46.7%減)と大幅減益で、年間配当を140円(前期180円)に減配することを嫌気した売りが膨らんだ。売上収益は9兆円(同12.8%増)と2ケタ増収を見込んだが、原材料価格の高止まりと在庫評価損が収益を圧迫する。

減益見通しを嫌気した売りが膨らんだ。年間配当も54円(前期205円)へ大幅に減配する。

じげん最高益連続増配

じげん(3679)がストッパー高。23年3月期の連結営業利益は41億8000万円(前期比26.1%増)で着地、24年3月期も53億円(前期比26.8%増)と大幅増益で連続最高利益更新を見込んだ。集約サイトが伸びており、期末一括配当も前期4円(前期3円50銭)、今期5円へ連続増配を予定。

松井証券

今こそ始めるデイトレード

松井証券の一日信用取引

手数料 0円 金利・貸株料 0~1.8%

取引
コスト

プレミアム
空売り

独自
サービス

最短3分でお申込み完了!

【無料】新規口座開設はこちら
marketpress.jpのバナーをクリック





円から40億円(前期比19.5%増)へ上方修正した。農薬分野で主力製品である殺虫剤「オンコル」や「オリオン」が好調に推移した。

OATアグリS高で新値

農薬好調で今12月期上方修正

OATアグリオ(497)がストップ高(9)まで買われ、年初来高値を更新した。23年12月期の業績予想について、営業利益で32億

藤田観光大幅上方修正

週末12日、藤田観光(9722)が急反発。23年12月期の業績予想について、連結売上高で566億円から608億円(前期比39.0%増)、営業利益で4億円から37億円(前期40億4800万円の赤字)へ大幅に上方修正した。インバウンド需要が急回復、新型コロナウイルス感染者数減少や行動制限緩和に伴い観光需要も回復した。

シキノハイテック(シキノHTストップ安)がスト(6614)がスト。決24年3月期は単体営業利益5億6000万円(前期比14.8%減)と2ケタ減益を見込んだ。半導体後工程、車載機器向け専用計測器が伸び、デジタルLSI設計も堅調だが、部材の調達難、長納期化の影響を織り込み保守的に見積もった。

大阪チタ今期36%営業増益

週明け15日、大阪チタニウムテクノロジーズ(5726)が大幅高。24年3月期は連結売上高540億円(前期比2

5月第3週の動意銘柄

5.4%増)、営業利益65億円(同36.0%増)と2ケタ増収増益を見込んだ。チタンは引き続き航空機向け需要が着実に増加、加えてサブライチェーン再編の影響も当面は継続するものと想定され、

守谷輸送機工業(6226)が急伸、最高値を更新した。

24年3月期は連結営業利益で前期比2.5倍の19億5000万円と大幅な増益を見込んだことが好感された。保守部品製造の内製化などによるコスト競争力の強化を進めている。

オリパス(733)は大幅安で年初来安値更新。24年3月期は1630億円(前期比12.7%減)と

APLIX債権回収(3727)が急伸、年初来高値を更新した。23年12月期の業

社スマートモバイルコミュニケーションズが、未収債権の回収を実施した結果、当初想定以上の回収が実現した。

2ケタ減益を見込んだ。前期に固定資産売却益約を計上しており、品質保証・法規制対応などに関連する費用が収益を圧迫する。併せて発行株の4.39%にあたる5500万株、1000億円を上限とする自社株取得枠を設定したが反応薄。

過熱サイン続々

先週の東京株式市場は6週続伸。しかも大きな値幅を伴った上昇となりバブル崩壊後の高値を更新。先物主導による上昇で物色は指数寄与度の高い値嵩株が買われ、日経平均の25日線乖離は6%超と過熱ゾーンに突入。足元の日足ローソク足は四空形成。ボリンジャーバンドでは+3σに接近といった具合で買いが買いを呼ぶ展開で上げ足を速めた1週間でした。買い方の主体は海外勢と思われる、特にAIによる自動売買が先導したものとされます。

週末19日の日足ローソク足は十字足に近い陰線を形成。天井っぽい日足となりました。今週は上げの勢いが止まれば上昇ピッチが速かっただけに、その反動で値幅を伴った調整局面を迎えるかもしれません。今後の焦点は、低迷していたグロース市場の小型株に資金シフトが起こるかでしょうか。

日々勇太朗



～決算情報～

TOA

日本精線

今3月期は46%営業増益
デジタルシフトと双方向コミ製品強化

TOA(6809)は24年3月期の連結業績について、売上高480億円(前期比6.4%増)、営業利益25億円(同45.9%増)、最終利益15億5000万円(同12.2%減)と増収大幅営業増益を見込んだ。

23年3月期は海外販売が好調で円安効果もあって2ケタ増収ながら、原材料価格高騰や輸送コストの上昇などによる営業費用負担が収益を圧迫、2割超の営業減益で着地した。

今期はデジタルシフトによる営業活動とサプライチェーン効率化、ネットワークを活用した双方向コミュニケーションを拡大する製品を強化することにより収益性が大きく改善する。最終減益は前期に土地売却益を特別利益に計上していたため。年間配当40円は据え置いた。

過去最高の売上高記録
高機能・独自製品へ強い需要継続

日本精線(5659)の23年3月期は連結売上高で490億5500万円(前の期比9.5%増)、営業利益で41億7900万円(同9.1%減)、純利益で30億8600万円(同2.9%減)となった。半導体関連業界向け超精密ガスフィルター(Nasclean)や太陽光発電パネルなどの製造プロセスで使用される極細線に代表される高機能・独自製品に対する需要の強さが継続し過去最高の売上高を記録したが、ステンレス鋼線の流通在庫の調整による販売量減少が操業度損増につながり減益を余儀なくされた。

24年3月期は売上高475億円(前期比3.2%減)、営業利益38億円(同9.1%減)、純利益26億6000万円(同13.8%減)を見込む。

ビ花壇の日足チャート



16日、ビューテ
イ花壇(3041)
が5連騰、連日でス
トップ高まで買われ
新値追いついた。新コ
ナが今月8日から5
類に移行したことを
受けて6月最盛期を
迎える婚期需要が拡
大するとの期待から
買いが買いを呼ぶ展
開。急ピッチな上昇
から警戒感もあるも
の、警戒感も株単位
での10万円台で購
入できることから、割
り切った個人からの買
も活発化したというよ

ビ花壇連続S高新値

婚礼需要で買いが買い呼ぶ

うだ。

FFJ17%営業減益

Fast Fit
ness Japan
(7092)がス
トップ安。24年3
月期は連結営業利益
で前期比16.8%
減の28億円と大幅
減益を予想した。売
上総利益減少に加え
え、人件費や基盤イ
ンフラの整備などの
販管費が増加する。

SANKO MFはS高

18日、
ANKOM S
ANKETI
ARKFOO
D S(276
2)がスト
プ高。23
年6月期の業
績予想を下方
修正したもの
の、主要業態
の3月売上高
でコロナ前比
増と大幅

半導体関連急反発

アドバンテス
ト(6857)
や東京エレクト
ロン(803
5)など半導体
関連が急反発。
米国株市場でイ
ンテル、エヌビデ
イア、アドバンスト
マイクロなどが半導
体大手が買われ、S
OX指数が2.68
%高と大幅に上昇し
たことを受け買いが
波及した。韓国サム
スン電子が横浜市に
半導体開発拠点を設
けると伝わったこと
で日韓連携への期待
も買い気を誘った。

クオールHD子会社化

クオールホール
ディングス(30
34)がスト
プ高。第一三共(4
568)の連結子
会社である第一三
共エスファ(D S
EP)を子会社化
すると発表した。D
SEPはジェネ
リック薬を拡大中。

に伸びていることが
好感された。

～決算情報～

DmMiX

第1四半期減収減益で着地

新型コロナワクチン接種関連反動減

ダイレクトマーケティングミックス（7354）の23年12月期の第1四半期（1～3月）決算は連結売上収益で86億8600万円（前年同期比14.3%減）、営業利益で16億3300万円（同39.4%減）、四半期利益で10億7500万円（同38.0%減）となった。マーケティング事業では既存顧客や新規クライアント向け業務受託が堅調に推移した一方で前年同期の収益に大きく貢献した新型コロナウイルスワクチン接種関連の業務受託などが減少。オンサイト事業では採用市場は好調に推移した。

通期については売上収益で360億円（前期比3.8%増）、営業利益で58億円（同0.5%増）、純利益で37億7000万円（同0.9%増）の従来予想を据え置いている。

三相電機

12%営業増益配当引上げ

半導体製造装置用ポンプの好調続く

三相電機（6518）の23年3月期の連結決算は、売上高186億1800万円（前の期比8.9%増）、営業利益9億100万円（同11.8%増）、最終利益8億1500万円（同7.8%減）で着地。期末一括配当を25円から27円（前の期25円）に引き上げた。半導体製造装置用ポンプの好調が続く、工作機械向けや空調用モータも堅調に推移、部材安定調達体制確立と値上げにより増収2ケタ営業増益を確保した。最終減益は前の期に固定資産売却益を計上していたため。

24年3月期は売上高177億円（前期比4.9%減）、営業利益6億8000万円（同24.6%減）、最終利益5億円（同38.7%減）を計画。メモリIC在庫調整の影響を織込み保守的に見積もった。



大水がストップ高

中計目標改めて好感

17日、増益を見込む。シダックス期待値に届かず。シダックス（4837）が急落。16日の取引終了後、24年3月期の業績予想を発表した。中期計画で3月期の営業利益が6億000万円を目標に立ててきたが、前期の好転も踏まえ、前期の営業利益を2億000万円と見直し、中期計画の営業利益を4億000万円と改定した。この見直しは、前期の好転も踏まえ、前期の営業利益を2億000万円と見直し、中期計画の営業利益を4億000万円と改定した。

Abalance（3856）が急落。海外のViceroy Researchのレポートが嫌気された。レポートでは子会社VSUNが事

▲バランス海外レポート
Abalance（3856）が急落。海外のViceroy Researchのレポートが嫌気された。レポートでは子会社VSUNが事

18日、ソニーが大幅続伸、年初来高値を更新した。発行株の25.03%にあたる25000万株・20000億円を上限とした自己株取得枠を設定すると発表された。金融子会社ソニーフィナンシャルグループの株式市場を前提にパシフィックを前回の検討を開始したこともポジティブ視された。

ソニーG自社株買スピンオフ

シダックス（4837）が急落。16日の取引終了後、24年3月期の業績予想を発表した。中期計画で3月期の営業利益が6億000万円を目標に立ててきたが、前期の好転も踏まえ、前期の営業利益を2億000万円と見直し、中期計画の営業利益を4億000万円と改定した。

ROBOTA（4374）が急伸。ヘッドウォータース（4011）と連携してスマートシテイやスマートストア向け認証基盤プラットフォームのソリューションを提供すると発表した。大と収益貢献を期待した買いが向かった。

ロボへいはスマート決済
実上すべての部品を中国のサプライヤーから購入しており、主要市場である米国での関税を回避するためにベトナムで組み立てていると指摘。会社側はこれを否定している。

想を発表、連結営業利益で前期比2.3%増の44億円と増益予想ながら、市場コンセンサスが50億円程度だったことで悲観売りを浴びた。

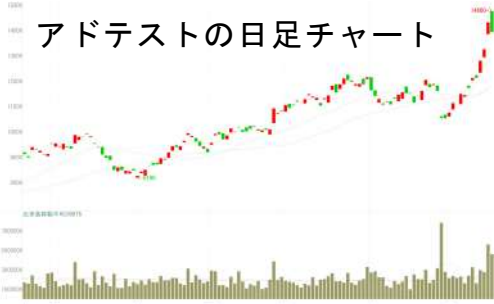
～決算情報～

荒川化学工業

高付加価値戦略で収益再建 光硬化樹脂など重点3分野に増産投資

荒川化学工業（4968）の23年3月期の連結決算は、売上高794億3100万円（前の期比1.3%減）、営業損益29億700万円の赤字（前の期33億400万円の黒字）、最終損益49億4100万円の赤字（同15億200万円の黒字）で着地。24年3月期は売上高830億円（前期比4.5%増）、営業損益18億円の赤字、最終損益18億円の赤字を予想した。

千葉アルコン製造が5月下旬から本格稼働の予定で、当面は高水準の減価償却費が損益を圧迫するが「高付加価値戦略を強化することで収益再建を急ぐ」（宇根高司社長）構え。光硬化型樹脂と半導体向けファインケミカル、ハードディスク用研磨材の重点3分野に増産投資しており、今期中に収益貢献を見込む。



18日、アドバンテスト（6857）東京エレクトロン（8035）、レーザーテック（6920）など半導体関連が続騰。海外報道で米メモリーチップ大手のマイクロン・テクノロジーが日本政府から200億円の手配を受け、同社の支援を受け、同社が工場を次世代DRAMを生産する工場とした。EUVを光源としたリソグラフィ技術による1世代呼ばれる製品を24年

ファンデリー（3137）がストップ高。24年3月期は連結営業利益で5200万円（前期2億

ファンデリー黒字転換
ファンデリー（3137）がストップ高。24年3月期は連結営業利益で5200万円（前期2億

リコー、東芝事務機統合
リコー（7752）が急伸。東芝（6502）とオフィスを向け複合機やコピー機など事務機の生産部門を統合すると伝わった。生産や設計、開発機能を集約した統合新会社を24年に立ち上げ出荷ベースとしており、在宅勤務の定着などで事務機の需要が急減するなか、再編による収益改善が期待された。

アーレステイ（5852）が一時ストップ高で新値。24年3月期は連結営業利益22億円（前期2300万円）と大幅増益で増配を計画。

アーレステイ大幅増配
アーレステイ（5852）が一時ストップ高で新値。24年3月期は連結営業利益22億円（前期2300万円）と大幅増益で増配を計画。

Aimingが急落
Aiming（3911）が急落。5月23日リリース予定の「ダンジョン」に出会いを求めるのは間違っているだろうか バトル・クロニクルを8月24日に延期した。

までに量産を目指しており、マイクロンの大型投資によるビジネスチャンス拡大を期待した買いが関連銘柄に向かった。

半導体関連が続騰

マイクロン広島工場大型投資

～決算情報～

STEMセル研究所

2割増収5割増益見込む 保管拡大、値上げで最高業績続く

STEMセル研究所（7096）は24年3月期の単体業績について、売上高25億900万円（前期比20.0%増）、営業利益4億5100万円（同51.8%増）、最終利益3億円（同51.5%増）と前期に続いて大幅増収増益で過去最高業績更新を見込んだ。

国内外でさい帯（へその緒）を用いた研究開発が進むなか、国内全出生数に対する細胞保管率を3%程度まで高める中期目標に向け、幹細胞を用いた治療機会の拡大や細胞培養時の生産物を利用する新事業をスタート。デジタルとリアルマーケティングの相乗効果で収益性が向上しており、前第4四半期に実施した5～6%の値上げも通期貢献する。同じく中期経営目標の営業利益率30%達成へ幹細胞バンキングを利用した新プロダクトやサービスの開発も進めていく。

日本トリム

24年3月期2桁増収増益 対面販売制約なくなり値上げ効果も

日本トリム（6788）の23年3月期は連結売上高で179億5100万円（前の期比10.3%増）、営業利益で23億7800万円（同19.0%増）、純利益で16億4600万円（同15.2%減）となった。

整水器販売事業は、新型コロナの感染症法上の位置付けが5類に移行されたことにより対面販売への制約がなくなり、徐々に正常化していくことから、コロナ禍前の水準への回復から更なる成長を目指す方針。本体とカートリッジの値上げ効果も浸透し、利益率向上も図る。

24年3月期は売上高198億円（前期比10.3%増）、営業利益27億2000万円（同14.4%増）、純利益18億7000万円（同13.6%増）と2ケタ増収増益を見込んでいる。

大和ハウス工業

今3月期実質最高益見込む 事業施設は半導体など大型開発視野

大和ハウス工業（1925）は24年3月期の連結業績について、売上高4兆9200億円（前期比0.2%増）、営業利益3800億円（同18.3%減）、最終利益2500億円（同18.9%減）を予想した。減益は退職給付債務割引率変更に伴う債務の減少（812億円）に伴い、23年3月期の利益がかさ上げされたため、実質は増益で過去最高益更新になる。年間配当は135円（前期130円）と14期連続増配を計画した。

請負型・開発型ビジネスを維持、海外とストック事業を伸ばすことで収益を拡大する方針で、物流・事業施設は「データセンターから半導体工場など大型開発を視野に入れている」（芳井敬一社長）としており、住宅金利上昇の影響を受けている米国住宅事業は木造を採り入れテコ入れする。

立花エレテック

23年3月期過去最高業績 FA、半導体、海外含め大幅に伸びる

立花エレテック（8159）は23年3月期は連結売上高で2272億6600万円（前の期比17.5%増）、営業利益で103億1600万円（同53.8%増）、純利益で78億4100万円（同52.4%増）と過去最高業績を達成した。FA機器分野、半導体製造装置関連、半導体デバイス事業、施設事業、その他や海外関連含めた各事業とも大幅に伸長している。

24年3月期は売上高2230億円（前期比1.9%減）、営業利益95億円（同7.9%減）、純利益70億円（同10.7%減）と物価高などを考慮して慎重な予想を立てているが、大阪取引所での決算発表の席上、**布山尚伸社長**はFA機器分野について「ソリューションビジネスへの提案を更に強化」して収益拡大を図る方針。

～決算情報～

あじかん

今期5倍営業増益見込む 需要創造型営業・開発とコスト対策

あじかん(2907)の24年3月期は連結売上高で500億円(前期比5.4%増)、営業利益で4億5000万円(同5.05倍)、純利益で3億7000万円(同38.1%増)と大幅な増益を見込んでいる。

業務用食品などでは、営業と開発部門との連携を強化するとともに、引き続き需要創造型の営業・開発を推進。一方、焙煎ごぼう茶を主力とするヘルスフードでは、環境変化に適した新製品開発を進めるとともに、焙煎ごぼう茶のさらなる販路拡大に向け、新市場開拓を進める。利益面では主要原材料である鶏卵価格の高騰や供給制約に加え、円安の進行、原油高に伴う仕入コストの上昇などが見込まれる中、自助努力可能な原価低減・経費・投資の執行マネジメントの一層の強化に加え、売価政策の推進などを進めていく。

六甲バター

需要喚起と増産安定稼働 通期黒字予想据置き20円配継続

六甲バター(2266)の23年12月期第1四半期の単体決算は、売上高106億5800万円(前年同期比7.4%増)、営業損益2億7500万円の赤字(前年同期3億8300万円の黒字)、最終損益2億1100万円の赤字(同2億7900万円の黒字)で着地した。外食産業向け需要が堅調で増収を確保したが、乳製品相場高騰による原材料コストアップが損益を圧迫した。

ただ、チョコレートは2ケタの伸びとなっており、チーズ製品値上げ後の需要喚起策に加え、生産能力増強と全生産ラインの安定稼働、経費削減効果により、通期は売上高415億円(前期比1.0%減)、営業利益1億3000万円(同62.4%減)、最終利益1億円(同54.5%減)と黒字予想を据え置いた。期末一括配当は20円を継続。

グルメ杵屋

27%増収で黒字浮上予想 店舗収益力強め新規顧客も開拓

グルメ杵屋(9850)は24年3月期の連結業績について売上高379億5900万円(前期比27.0%増)、営業利益4億4700万円(前期3億8600万円の赤字)、最終利益4億900万円(同11億5000万円の赤字)と大幅増収で黒字浮上を予想した。

店舗設備の減損損失や子会社への債務保証損失を特別損失に計上するなど前期でうみ出し済ませており、レストランは新規出店とブラッシュアップした既存ブランドの出店を加速することで店舗収益力を強化、利益が見込める店舗に投資を集中する一方、労働生産性プロジェクトを導入して省力化も進める。渡航制限が見直され回復が期待される機内食は新規顧客獲得とともに、既存顧客との契約内容の見直しや原価率の適正化により収支を改善していく。

大森屋

第2四半期利益は計画超 ふりかけ製品好調で経費削減効果も

大森屋(2917)の23年9月期の第2四半期累計(10～3月)決算は連結売上高で従来予想の72億500万円に対して69億9900万円(前年同期比3.8%減)、営業利益で2億1000万円に対して3億2000万円(同31.5%減)、純利益で1億3500万円に対して1億9400万円(同67.4%減)と利益は計画超で着地した。

「緑黄野菜ふりかけ・小魚ふりかけ」などのふりかけ製品は好調に推移し、業務用海苔は、コンビニエンスストアなどの弁当・おにぎりなどの需要は回復傾向にあるが、業務用海苔は、値上げによる消費意欲の落ち込みが影響した。一方、原料海苔価格の上昇の影響が想定より下回ったことにより売上原価率が下がったことに加え、広告宣伝費他、経費削減の効果が利益を押し上げた。

～決算情報～

新コスモス電機

23年3月期24%営業増益 家庭・工業・業務用揃って好調

新コスモス電機（6824）の23年3月期連結決算は売上高で372億600万円（前年同期比11.4%増）、営業利益で56億9300万円（同23.8%増）、純利益で37億3600万円（同1.0%減）となった。

家庭用ガス警報器関連では都市ガス用が国内と海外において警報機の販売が好調に推移、工業用定置式ガス検知警報器関連では国内のLPガス業界、化学業界向けガス検知警報器が好調に推移し、海外でエレクトロニクス業界向けが伸長。業務用携帯型ガス検知器関連では自動車業界や石油業界向けなどでガス検知警報器が増加。

24年3月期は売上高412億9400万円（前期比5.7%増）、営業利益47億8000万円（同16.0%減）、純利益28億6200万円（同23.4%減）を見込んでいる。

英和

前期2ケタ増収増益で着地 DX需要取り込み今期も収益拡大

英和（9857）の23年3月期は連結売上高412億8400万円（前の期比10.5%増）、営業利益18億9400万円（同21.3%増）、純利益13億2000万円（同23.8%増）と2ケタ増収増益で着地した。

商品長納期化の影響を受け社会インフラ市場向け特殊車両の販売が減少したものの、コンビナートエリアでの定期修理に伴う更新需要が堅調に推移したことに加え、造船業界、製造用機械・電気機器業界、電力業界向けを中心に販売が伸長した。

生産性向上や効率化につながるDXなどの投資需要を取り込むことで、24年3月期は売上高420億円（前期比1.7%増）、営業利益19億5000万円（同2.9%増）、純利益13億2500万円（同0.3%増）を見込んでいる。

LINE 証券

LINEではじめる

株投資

20代投資家が選ぶ「スマホ利用で使いやすい」
ネット証券No.1

スマホで株取引するなら、
LINE証券！



投資をはじめよう！

\LINE証券口座開設でもらえる/

最高3株分の購入代金

0

円

要エントリー

marketpress.jp のバナー広告をクリック！

J
P
X

小口化進む現物のヘッジ手段

5月29日上場

「日経225マイクロ先物・ミニオプション」

平均が3万円を超えた現状では日経225mini 1枚を建玉するだけで約300万円の投資

資金が必要になる現状では小口化された現物に対してはオーバーヘッジになる。

このような現状に対応すべく上場する「日経225マイクロ先物・ミニオプション」は日経225マイクロ先物の取引単位で日経225miniの日経平均×100円（約300万円）対して日経平均×10円（約30万円）での投資が可能。ミニオプションについても日経225オプションのオプション・プレミアム×1000円に対してオプション・プレミアム×100円での投資が可能になる。大阪取引所では日経225マイクロ先物・ミニオプションの特設サイト (<https://225micro-minioptions-campaign.com/>) を通じて個人投資家へアピールしていく。



横山隆介社長

日本取引所グループ（8697）グループの大阪取引所が5月29日から取引を開始する新商品「日経225マイクロ先物・ミニオプション」、「ESG指数先物」、TONA3か月金利先物」の概要説明が大阪取引所5階オーバルで開催された。

現物市場では投資の小口化が進んでおり、端株を扱うスマホ証券が台頭。そのような状況下、大阪取引所の平地 亮市場企画部兼デリバティブ市場営業部課長は「投資の小口化が進む現物市場に合わせたヘッジ手段の提供は必要」とし今回の商品提供に至った背景を説明。現在、小口レバレッジ商品では2006年7月に上場した日経225miniが存在するが、最近では類似・代替的な商品が台頭しているうえ、日経

企業レター

購読会員募集中！

<https://marketpress.jp/subscribe/>

株式市場新聞では、購読会員を募集しています。

短期値幅取り候補銘柄！！



【正直じいさんの株で大判小判】でお馴染み!!
花咲 翁氏が独自の分析で値幅取り候補銘柄を紹介。

株式市場新聞

www.marketpress.jp

町田健登の ワールドマーケットナビ



の破綻に代表される世界的な金融不安・経済不況。その中、なぜフィリピンはGDPが6%以上成長を継続する

の連続する前回の記事で、記述の要約を、前回の記事で、記述の要約を、前回の記事で、記述の要約を、



フィリピンの首都マニラ



フィリピン取引所があるボンフィアショ・グローバルシティ

魅力③右肩あがり

魅力③右肩あがり。購入する際に、割安に購入することが可能です。標もアメリカが現在21倍の中、フィリピン株は14倍を切っており、割安に購入することが可能です。

魅力④配当10%を超えるような財閥株。時価総額ランキング30位以内の財閥企業の中には、10%以上の配当を毎年継続している企業も存在します。資本力のない高配当株の場合には、危険を伴いますが、フィリピン株の場合には、市場を独占する黒字財閥企業の中にも高配当株が存在します。業績に対して株価が安いからこそ、長期目線では株価も上昇し安定収入の1つになるかもしれません。

フィリピン株 の魅力は？

長期目線で安定収入



町田健登氏(ライフソフト合同会社代表のプロフィール) 筑波大学卒業後、外資企業営業職を経て人材派遣会社のフィリピン駐在員。現地日系フィリピン金融ホールディングスの役員に就任。31歳で無借金、純資産1億円を達成。2020年、ライフソフト合同会社を立ち上げ独立。現在は、ファイナンシャルプランナーとして活躍するほか、在日フィリピン商工会議所理事、大妻女子大学 大妻マネジメントアカデミー 講師など社会面・教育面でも活躍。「フィリピン投資入門」「フィリピン株を推すこれだけの理由」を出版。アイアンマンレース完走やキリマンジャロ山登頂など、冒険家としても活躍する。

このギャップが個人投資家の方にとって、非常に有利に働きます。魅力①上場社数が少ない

魅力②取得コストの低いフィリピン株

魅力③右肩あがり

魅力④配当10%を超えるような財閥株

非常に数が少ないかと思いませんか。銘柄数が多いと市場に多くの資金があつまりますが、逆に言えば有力銘柄を絞るのも至難の業。銘柄が少ないフィリピンでは買わなければならない銘柄は、必然的に絞ら

のマーケット。フィリピンを代表する30社で構成される総合指数はリーマンショック以降、約10年で4.3倍に。30年の間で900%近い浮上を遂げてきました。コロナ・ウクライナ戦争の影響で少し停滞気味ですが、バブル崩壊後30年以上最高値を更新しない日本株と比較すると爆発的に成長してきたことがわかるかと思えます。

潮流

資金流入7月頃まで続く

海外からの買いで33年ぶり高値

marKet/bAnk

東証株価指数（TOPIX）が33年ぶりの高値を更新した。

日経平均

は2021年9月以来、約1年8カ月ぶりに節目の3万円を超えた。18日には3万667円を付け、2021年9月に付けた高値（3万670円）に並んだ。日本株を買っているのは海外投資家だ。

財務省が発表した4月の対外及び対内証券売買契約の状況（指定報告機関ベース）によると、海外投資家は日本株を大幅に買い越した。買い越し額は4兆9760億円と、比較可能な2014年1月以来、過去最大だった。

海外投資家は5月に入っても日本株を買っており、投資部門別売買状況を見ると、5月第1週（1日～2日）から5月第2週（8日～12日）に、現物と先物の合計で1兆2419億円の買い越しとなっている。

海外投資家は短期筋だけでなく、中長期の機関投資家も確実に日本株の資産配分を増やしているようだ。東京証券取引所のPBR（株価純資産倍率）1倍割れ企業に対する改善要請などを受け、日本企業の資本効率が向上するとの見方が海外勢の買いを誘っている。

4月に来日した米著名投資家ウォーレン・バフェット氏が日本株に強気の姿勢を示したことも追い

風となっている。米国で上場する上場投資信託（ETF）を通じて

米個人投資家の資金も入っている。

QUICK・ファクトセットによると米国上場の株式に投資するETFを投資対象としている国別に集計すると、過去1カ月で日本をテーマにするETFへの資金流入が最も多

かったようだ。最も流入が多かったのが、ブラックロックが運用する「iシェアーズMSCIジャパン」で、1カ月で2億4000万ドル（約330億円）の流入があった。

組み入れ銘柄にはトヨタやホンダ、ソニーグループ、キーエンスなどが並ぶ。日経平均採用銘柄で昨年末比上昇率9位のオリエンタルランドを組み入れ上位で保有するJPモルガンの「ベータビルダーズ・ジャパン」にも5000万ドル以上の流入があったようだ。

過去、バフェット氏の円起債や商社投資が明らかになった後も同様に日本株が買われた。その時の効果の持続は3カ月程度だった。今回も同様な動きになるとするならば、資金流入は7月に入る頃まで続き、日本株をさらに押し上げることになる。

潮流銘柄は高千穂交易（2676）、ユアサ商事（8074）、大同特殊鋼（5471）。

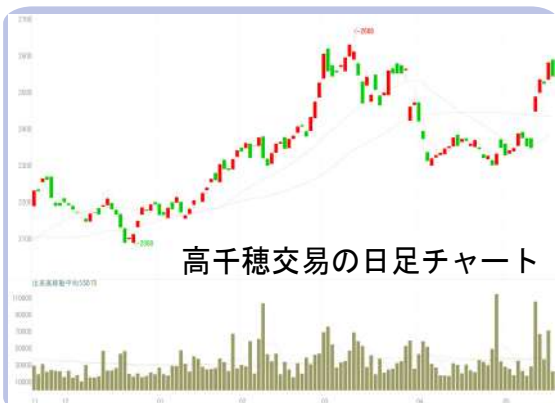


岡山 憲史氏（株式会社マケットバンク代表取締役）のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年

にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2022年1月の夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

日本テーマの米ETF最多





敬腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社の

法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。



今回の上昇相場でもCTAが仕掛けた！

225OP23年6月コール3万3000円



購入が急増しているという点も以前と違う点であると思われる。コロナ後の日本は日本人が思っている以上に海外の人から魅力的に見えるかもしれない。

しかし、やはり短期過熱感
は強い。振るい落としの急反
落も十分考えられる。ボラテ
イリティが非常に高くなって
いるのでCTAはコールで稼
いだ後、一転プットで稼ぐ戦
略に変わる可能性も高い。
先週の動きではイブニング
取引で上値を付けるケースが
多かったので、イブニング取
引で値動きが止まってくれば
要注意である。プレミアムが
割高に付いているのでオプシ
ョンを売りから入りがちだが
ボラティリティの高いときの
売りは危険である。相場が落
ち着くまではオプションはプ
ットもコールも買いの短期勝
負で臨むのが良いだろう。
今週のレンジは3万200
円〜3万1300円を想定す
る。
(ハチロク)

先週の日経平均は前週末比
約1420円高と6週連続陽
線となった。TOPIXに続い
て日経平均も33年ぶりの高
値となり約2年続いたBOX
相場を上げてきた。要
因は先週もこの欄で書い
たが要は「日本の再評価」
である。その流れに「持
たざるリスク」が発生し

て「買いが買いを呼ぶ」展開
となった。
こういう流れはCTA(商品
投資顧問)は見逃さない。コ
ールオプションを利用して値
動きを拡大させた。例えば6
月物の行使価格3万3000
円のコールオプションは15
日には1円のプレミアムであ
った。それが19日には12
5円のプレミアムが付いた。
実に5日間で125倍である。
月曜日に1万円だった

高値や安値を更新するとき
に大きな動きが出るのはこの
ヘッジの動きが出るためであ
る。安値更新ではよくあるこ
とだが、高値更新でのこの動
きは筆者も久しぶりである。
以前の3万円台回復時と違
って今回は日本自体が変化し
始めている。この流れはやは
り中期的にも続くと思われる。
また、海外の個人投資家だ
けではなく、海外の個人投資
家もETFを通じて日本株の

振るい落としの急反落も 踏み上げ相場 コールオプション

たのが金曜日には125万円
になったということだ。
このような現象がオプション
市場では様々な行使価格で
起こっている。6月物はメジ
ヤースQでもあるのでポジシ
ョンは以前から組まれていた
が、その売りポジションの買
い戻しや先物のヘッジ買いを
誘う動きを仕掛けたというこ
とだ。

日経225先物日足チャート



星野三太郎の 株街往来

～歴史は繰り返す？
債務上限問題～

日経平均は3万円が視界に入ってきた。海外に目を向けるとNYダウや独DAX、英FTSEM、上海とも冴えない動きで日本株もマザーズやグロース指数は冴えないから日経平均とナスダック指数だけが独歩高だ。

筆者の知人も個人

投資家に関しては強気派が大半を占めているが、やはり気になるのが米国の債務上限問題。因みに今回と状況が似ているのが2011年のオバマ政権下で、翌年の大統領選を控えて野党共和党は歳出削減を求めて「オバマケア」などを槍玉に上げていた。今回はバイデン政権が成果としているコロナ対策費やウクライナへの軍事支援費あたりが槍玉だと思おう。

2011年当時も結局は株価暴落で国民の批判が最高潮に達した段階での合意だったから、今回も合意するとしたら、新たな金融機関の破綻とか株価暴落など絶体絶命の状況にならないとダメなのかと思ったりする。

民主、共和党とも言い分は分からなくもないが、外国の内輪揉めで自国の株価が急落するなんて大変迷惑な話だ。



New product

ハウス食品 冷製カレーうどんの素
暑い夏にぴったり数量・期間限定



冷製カレーうどんの素

ハウス食品グループ本社（2810）グループのハウス食品は「冷製カレーうどんの素」としてスパイシーカレーと夏野菜カレーをスーパーなどで数量・期間限定で発売している。

冷やしてうどんにかけるだけで、暑い夏にぴったりの“冷たいカレーうどん”が楽しめる具材入りのカレーうどんの素。スパイシーカレーは「北海道産昆布」のだしの旨みに、カルダモン・黒胡椒・クミンの爽やかなスパイスの香りが特徴で、鶏肉と玉ねぎが入っている。夏野菜カレーは「焼津産かつお」のだしの旨みに、爽やかなトマトの酸味が広がる。ペーストのトマトを使用したソースに、なす・ズッキーニが入っている。

森永乳業 バナナの大様とコラボ
甘熟王チョコバナナサンドアイス



甘熟王チョコバナナ
サンドアイス

森永乳業（2264）はスミフルジャパン（東京都渋谷区）の「甘熟王（かんじゅくおう）」とコラボレーションした「甘熟王チョコバナナサンドアイス」を5月23日から全国のコンビニエンスストアで数量限定発売する。

「甘熟王」は“バナナの王様”と呼ぶにふさわしい甘くておいしい高糖度のバナナ。スミフルが約50年の“独自の栽培経験や技術”を生かし、時間をかけて育てた甘熟王は他では真似のできない甘さ、食感、コクのある“美味しさ”が楽しめる。「甘熟王チョコバナナサンドアイス」はアイスに「甘熟王」のバナナピューレを使用しているため、熟したバナナの濃厚な香りや甘さを堪能できる。さらにチョコチップを混ぜ込んだアイスをココアクッキーでサンドし、複合的な食感も楽しめる。

相場見通し

記者の視点

冷静に押し目を待つ

3万円台回復後も騰勢止まず

5月第3週の東京市場は17日に2021年9月28日以来1年8カ月ぶりに終値で日経平均が3万円台を回復した後、上昇は止まらず、19日までで7日連続して引けている。ニューヨーク市場は、ここから更に上

展開が続き、個別では東京エレクトロン(8035)などの半導体関連やファーストリテイリング(9983)など指数構成銘柄への買いが際立った。米国では24日に5月2・3日開催のFOMC議事録やエヌビディアの決算など、債務上限問題は共和党のマッケーシー下院議長が「合意に至る道筋がみえる」と述べて、今週にも下院で採決できるとの見通しを示している。国内外とも手掛かり材料難のなかで、今回の上昇相場がいつ終止符を打つかを見守るしかない。



日経平均は破竹の7連騰でバブル崩壊後の高値を更新した。海外勢の日本株への見方が変わったと言われているが、欧米に比べた日本経済の安定性が根拠ならい。ただ、米中対立やウクライナ情勢でデカップリングが進むなか、日本経済や東京市場が果たす役割の重要性が増していると考えれば、目先はさて置き中長期では3万円回復も通過点だろう。すでに香港はアジア個別銘柄の機能を失った。金融ハブの機能を失った。本格的に視点を変える必要がある。

編集後記

ては債務上限問題のニューヨーク市場に

スに一喜一憂する動きだ。ここから更に上

たが、ニューヨーク市場を

含めて欧米・アジア市場の動きに左右されず

一貫して上値追いの状態

で、買いが買いの呼び

ぶ展開が続いた。日中

取引が引けると16時

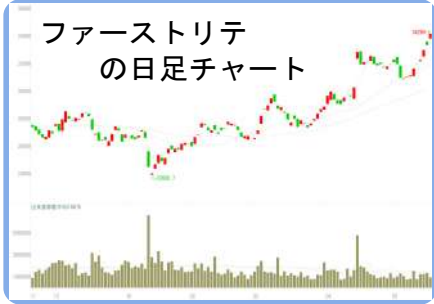
30分からの225先

物のナイトセッション

で、ナイトの追う展開

で、ナイトの追う展開

取引で更に上値を追う



当面のスケジュール

- ・22日 3月機械受注
- ・23日 4月全国百貨店売上高
米5月S&Pグローバル米製造業PMI
米4月新築住宅販売件数
- ・24日 5月2・3日開催FOMC議事録(25日3:00)
1月31日・2月1日開催のFOMC議事録
独2月Ifo景況感指数
- ・26日 5月東京都区部消費者物価
4月企業向けサービス価格指数
米4月個人所得・個人支出
- ・29日 休場:米(メモリアルデー)
- ・30日 4月失業率・有効求人倍率
- ・31日 4月鉱工業生産
4月商業動態統計
5月消費動向調査
中国5月コンポジットPMI、中国5月製造業PMI、中国5月非製造業PMI
米4月JOLTS求人件数
- ・1日 1-3月期法人企業統計
中国5月Caixin製造業PMI
米5月ADP雇用統計
米5月ISM製造業景況指数
- ・2日 5月マネタリーベース
米5月雇用統計

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。